

DEEP DIVE Breaking News 001
空母福建の所在と中国空母打撃群の構成

DEEP DIVE 小原凡司

2025年10月1日に撮像された衛星画像において、中国3隻目となる空母「18 福建」が、南部戦区海軍榆林保障基地の空母棧橋に係留されているのが確認された。(図1参照) 同画像から、空母「17 山東」が棧橋北側に、空母「18 福建」が棧橋南側に係留されているのが確認できる。



図1 「17 山東」「18 福建」の係留が確認できる榆林保障基地 (2025年10月1日)

その後、10月4日および5日には、両空母が棧橋から消え、6日には再度、揃って係留されている。このことから、「17 山東」と「18 福建」は編隊を組んで、南シナ海において訓練を行っていた可能性がある。

2025年9月27日、中国中央電視台は、「人民海軍3空母時代まもなく到来」と題した二

ニュースの中で、「18 福建」と「17 山東」または「18 福建」と「16 遼寧」という、空母2隻による艦隊システムを編成できるとしている。1個空母打撃群の中に2隻の空母が組み込まれるということだ。

1個空母打撃群を空母2隻体制とする意味について同ニュースは、「17 山東」と「16 遼寧」は、現在、固定翼早期警戒機を保有していない。「18 福建」に搭載される KJ-600 早期警戒機を活用することで、両空母の艦載機編隊間の連携運用が可能となる」と述べている。早期警戒管制機が運用できて初めて空母艦載機の作戦能力が発揮されることを、中国海軍は正しく理解しているということだろう。

裏を返せば、中国海軍は、「16 遼寧」と「17 山東」は単独では空母として十分な作戦能力を有していないと考えているということでもある。もし、「18 福建」が「17 山東」と2隻で空母打撃群を構成することになれば、4隻目の空母が「16 遼寧」と2隻で空母打撃群を構成する可能性が高い。中国海軍は空母4隻で2個空母打撃群を構成するということだ。

中国海軍が1個空母打撃群に空母2隻の体制を取るとすれば、今後、「18 福建」が青島総合保障基地か榆林保障基地のいずれを母港とするのかが明確になることによって、4隻目の空母の母港も推測できるだろう。DEEP DIVE Insight vol.1 および図1で示されているように、青島総合保障基地も榆林保障基地空母棧橋も拡張工事が行われている。中国の軍備増強を理解するためには、新たな艦艇や航空機を運用するために必要なインフラの準備状況も含めて分析する必要がある。